

りんごまつり

2014
10月
広報紙第20号

暑かった夏もようやく終わり、日が暮れるとめっきり冷えてくる今日この頃、秋が一日一日と深まってゆくのを感じます。こうしてゆっくりと、そしてたしかかな足取りで四季はめぐり、一年が過ぎてゆくのでしょうか。

秋はまた実りの秋でもあります。リブインさくらでも、十月には秋の遠足(きのこ狩り)、十一月には芋煮会を予定しています。自然の恵みに感謝をしつつ、しっかりと栄養を蓄えて、寒い冬の到来に備えていただきたいと思います。ご入居者の皆さん、美味しい物をたくさん食べて、秋と一緒に楽しみましょう。

恒例の納涼祭

今年も開催しちゃいました！恒例の納涼祭。皆様には7月の制作活動で作った手ぬぐいを持参していただき、風部の始まりです。

会場が落ち着いたよ！さやっ来て来ましたちんどん隊！と思いきや、今年の様子が変わります。どんな3人組(?)と興味深々でいると、宝塚歌劇団が百周年ということにあやかって、竹ノ塚過激団と銘打った3人組が登場してきました。



点の曲を交えながら始まった説明による笑と、これからちょっとした寸劇が始まるようです。おかしな3兄弟の登場で始まったこの寸劇は、皆様が無事に生きて来られた昭和の時代のお話を中心に、合間に懐かしい歌なども入り、笑いあり、涙あり(?)のひとつときでした。最後には坂本九さんの『明日があるさ』を全員で大合唱しました。途中で職員やご入居者を舞台上に迎え、大盛り上がりで竹ノ塚過激団の寸劇は終了しました。



思いきや、なにやらまだネタがあるようです。3人がそれぞれカラフルな棒を持ちだし、説明が始まりました。それぞれ持っている棒は「ドラ」「パイプ」というものらしく、叩いて音を出す楽器なのだそう。新たにもう1人、職員も加わり演奏開始です。パイプで体を叩きながらの演奏は少し痛々しくも感じましたが、4人で息を合わせ、『草競馬』と『喜びの歌』の演奏を聞かせてくれました。長い時間、しがない出し物にお付き合ひ頂き、ありがとうございます。

そして、この日はおやつも特別です。こちらも今年で百周年を迎えるという名菓ひよこ。こちらをご用意して皆様に召し上がっていただきました。

少し休憩して、お待ちかねの少イキング！丼ぶりの上に乗せる具材はお好きな物を選んでいただきます。もちろん、いつも大好評のサラダバーもあります。1階のリビングからラウンジ、会議室を開放して、皆様にはたっぷり召し上がっていただきました。

ビールを飲んでほろ酔い気分の方・・・あっとい問の楽しい納涼祭の一日でした。



敬老会



今年の敬老会は風食の行事食から始まりました。恒例の行事食はちらし寿司。このりんごまつりでも何度かお伝えしていますが、お刺身やお寿司は、大好物な方が多く、いつも大好評をいただいています。今回もそれにもれず、大好評でした。

敬老会

食事のあとは少し腹休めをして、今年度はボランティアの『玉手箱ひろし様』による、マジックショーの始まりです。不思議なマジックに夢中になる皆様の表情は驚いたり、笑ったりと大忙し。時々大きな拍手や『おおお』という声も聞こえ、会場を沸かせていました。途中で職員も参加させていただきました。マジックを教わる一面もあり、あっとい問に時間は過ぎていきました。



マジックショー終了後、施設長より、祝歳の方へお祝いの花束贈呈です。今年は2名の方が卒寿と米寿を迎えられました。お2人ともまだまだお若い！年齢よりも若く見えます。そんなお2人と記念写真を撮り、会は終了しました。

敬老会終了後、皆様が各フロアに戻らうをご用意しました。ちょっと大きなおまんじゅうでしたが、多くの方がペロリと美味しそうに召し上がられました。大きすぎて、ちょっと食べられないかな？という方には、紅白のおまんじゅうをそれぞれ半分、白半分、ペロリと。やっぱり、美味しいものや好きなものが別腹なのは誰しも同じのようです(笑)。



敬老会終了後、皆様が各フロアに戻らうをご用意しました。ちょっと大きなおまんじゅうでしたが、多くの方がペロリと美味しそうに召し上がられました。大きすぎて、ちょっと食べられないかな？という方には、紅白のおまんじゅうをそれぞれ半分、白半分、ペロリと。やっぱり、美味しいものや好きなものが別腹なのは誰しも同じのようです(笑)。



自衛消防訓練審査会



あります。

毎回、参加職員は業務に追われながらも懸命に練習し、全力でこの審査会に挑んでおり、今年も昨年同様、2名の職員が参加してきました。



これまでの審査会では『地震→火災発生→安否確認及び初期消火→初期消火失敗→屋内消火栓での消火』という流れでの動作でしたが、今年の審査会では『地震→安否確認及び破損箇所等の確認→負傷者または破損箇所等の報告者対応→火災発生→初期消火失敗→屋内消火栓での消火』とカブリと内容が変更しており、参加した事業所の間では、予想外の変更に驚きと動揺が見られました。



と、は言いつつも、ここまでできて辞退するわけにはいきません。参加職員は、寝る間も惜しんで(?)練習し、しっかりと参加してきました。



その甲斐もあり、なんと女子の部で見事、優勝することができました。惜しくも男子の部では優勝を逃してしまいましたが、厳しい環境下の中、2人の有志はとても頑張りました。審査会中は天候にも恵まれ暑くもな

発表が終了した途端に、雨が降りはじめ、気が付けば雷まで・・・急遽表彰式は屋内で行われ、無事に審査会は終了しました。

ちなみに、男子の部の優勝は同法人である特別養護老人ホームさくらの男子部隊でした。



リレーエッセイ



います。

今回、記念すべき第20号を担当することになりました堀川美和子です。リブインさくらに勤務して間もなく3年になろうとしています。

介護の仕事に興味をもったのは、もう17年くらい前になりましたが、父の具合が悪く、叔父からの『覚悟しておけ』の言葉に浮かんだことが介護でした。介護の事を知っておかなければと思い、巡回型滞在ヘルパーの仕事を始めますが、父はあっけなく他界し、介護の仕事も中途半端に終わりを告げました。復帰のきっかけは、よくある事情ですが離婚です。今は介護の仕事に日々、奮闘しています。少し話題が暗くなってしまうので、私の自己紹介をしたいと思います。



身は大分県です。今でも方言が抜けずに苦労しています。これが一番つらいです。ふるさと自慢といえば、私が育った地区は至る所に横穴式古墳が残っていることです。子供の頃はよく、近所の子とも達と裏山に探検に行きました。山に入る時の注意はハゼの木の下を通るな。マムシを触るな。墓地の中の石は絶対に踏むな(古墳がある所は今も墓地で様々なお墓があるため)の3つでした。しかし、大人達の忠告はむなしく必ずハゼ負けをして顔を真っ赤に腫らし、蛇は子ども達の中では患者扱いを受けていたので、見つけたたびにやつつけていました。(やつつけるのは男の子達です。)

私たちが女の子は傍観していましたが父にマムシを見せてもらいましたが、私には蛇の頭はみんな三角形に見えて、どれがマムシかさっぱりわかりませんでした。

そして、実際の墓地を学校や家に見たてておまごことをして遊びました。しかし、罰は当たるのですね。いつも通り墓地で遊んでいると、小さい子が墓石の角に顔をぶつけ、大怪我をしました。近所の大人達にいったい叱られた後、病院から帰ってきた子が笑いながらお菓子を食べているのを見てホッとしました。以来、お墓で遊ぶことはやめました。

学校の高学年になり、『宇宙戦艦ヤマト』に感動し、アニメにハマります。機動戦士ガンダム、あしたのジョー等々、主に少年漫画が大好きでした。結果、必然的に漫画家を

志すのですが、ちばてつや先生の仕事を見学に行き、アシスタントの方々の絵の上手さに驚き、あっさり挫折してしまいました。

その後、アニメーターの職に就きます。偶然にもその会社は私のバイブルとも言える『宇宙戦艦ヤマト』のディレクターを務めていた方が立ち上げた会社でした。社長によく当時の話しを伺いました。宇宙空間での爆発シーンの表現に苦しんだ事や、裏番組の『アルプスの少女ハイジ』に敗北し『ヤマト』の放送が打ち切りになった時に今の時代にこんな話は向かないんだと残念に感じたこと等。そして、『ヤマト』続編を制作する時にスタッフ皆が反対したことを話してくれました。続編はとても感動し前作よりも画がきれいだったとよく、ラストは涙で画面が見れなかったと口から出た私の感想に社長が少し悲しそうに苦笑いをされたのを覚えています。



結局、生活苦に負け、アニメーターも挫折してしまいました。その後、『ヤマト』を見返して、確かに『ヤマト』の続編はつまらないと感じ、本当に自分は何もわかっていなかったんだなあ...と痛感しました。いつも大切な物を見落として、後悔ばかりしています。こんな情けない私ですが、今後もうそよよくお願いします。

編集集後記

の、りんどう第20号を作成中に御嶽山の噴火のニュースを耳にし、とても驚きました。1ヶ月前には広島で大規模な土砂災害もあり、どちらも多くの犠牲者が出てしまいました。また、台風18、19号の上陸。犠牲になられた多くの方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

噴火や台風、地震など、自然災害が続いています。自然界に大きな影響を及ぼしてきた人間に地球が警鐘をならしているのではないかとも思えます。



皆様ご存じのとおり、リブインさくらでも非常時に備えて、定期的に避難訓練等を行っています。これからも他人事とは思わずに、しっかりと行っていきますので、変わらぬ皆様のご協力をよろしくお願い致します。